

記者ファイル

在日韓国人学校の語学教室

幼稚園児から高校生が通う在日韓国人の民族学校「白頭学院建国学校」(大阪市住吉区)で、生徒の保護者や地域住民らが対象の語学教室「建国ランゲージセンター」が開かれている。開講から12年、受講生は約60人と当初の10倍以上に増えた。講師や受講生らで韓国の本を翻訳して出版するサークルも誕生し、文化の架け橋を自指す取り組みを取り組みを取材した。

(田口直樹)

幼稚園児から高校生が通う在日韓国人の民族学校「白頭学院建国学校」(大阪市住吉区)で、生徒の保護者や地域住民らが対象の語学教室「建国ランゲージセンター」が開かれている。開講から12年、受講生は約60人と当初の10倍以上に増えた。講師や受講生らで韓国の本を翻訳して出版するサークルも誕生し、文化の架け橋を自指す取り組みを取り組みを取材した。

講義は入門から上級まで、語学力に合わせた計6コース。「韓流ドラマを字幕なしで楽しみたい」「母

1995年春、保護者からの「韓国語を教えてほしい」との要望で始まった。当初の受講生は5人程度だったが、保護者以外にも対象を広げ、口コミで評判が広がった。今では、大学生も60歳代の男女が学ぶ。多くが近くに住む日本人や在日コリアンだが、上級者向け韓国語教室が少ないため、京都や兵庫、三重から通学、愛媛や島根などから見学に来る人もいるという。

国語を大切にしたいなど、受講生の目的も様々だ。韓国語能力検定・5級以上の上級者向けに「通訳翻訳演習コース」を担当する同中学校教諭の前田真彦さん(43)は、「ラジオニュースや新聞記事などを使ってリスニングや和訳、韓国語での表現を指導する」。



文化交流の発信者に

出版。2005年4月には、前田さんの取り組みに賛同した受講生8人と「架け橋人の会」を発足し、韓国のテレビで放映された童話を全員で和訳して昨年末、原文と訳文を併記して出版した。

その後、同会は韓国の中学生1年生向けの数学や科学、家庭科などの教科書を翻訳した。現在は、次に翻訳が形になるのは素晴らしいことだ。一般の人が読みたくなるような本を見つけて早く活動を再開し、翻訳を通じて韓国の文化や歴史を分かりやすく紹介したい」と話している。

センター設立以来、受講生の中から、難関の韓国語能力検定・6級や、通訳ガイドの国家資格試験合格者が大勢出ているといふ。言葉の壁を取り払って、韓流ブームをきっかけに盛んになった文化交流の機運を、さらに高める場になることを期待したい。

韓流ブーム追い風 開講12年、受講生10倍超

読売新聞社会部大阪版「記者ファイル」係へ、感想や意見をお寄せください。

ファックス 06-6361-3001
電子メール o-naniwa@yomiuri.com